進めたい」（NHKテクノロジーズ）。

上映コンテンツは、2018年度に制作した最新3D作品「東日本大震災未来への記憶 2018」（約15分）を連続ループ上映。視聴者数は初日360名、2日目400名。

コンテンツ内容は次の通り。

◇宮城県・気仙沼市：500メートル内陸に押し上げられた大型巻き網船は2013年に撤去された。かさ上げ整地工事が終わり2017年には住宅や商店が建ち始めた。市内各所には災害復興住宅が整備され多くの人々の生活が戻ってきている。

◇宮城県・南三陸町：阪神・淡路大震災を教訓に整備された3階建ての

ンツの上映

市：周囲の山から大型ベルトコンベアーで土を運ぶ大規模かさ上げ工事が進み、整地された高台にはショッピングセンターや住宅が戻ってきている。かつて多くの人々でにぎわった「奇跡の一本松」の周辺では〝松原と砂浜〟の再生も進んでいる。

◇岩手県・宮古市田老地区：度重なる津波から町を守るために作られた二重の防潮堤も想定を大幅に超える大津波で破壊され、町は大きな被害を受けた。住宅は高台に移転し防潮堤周辺は商業地区として整備が進む。海側には新たな防潮堤も建設されている。

震災3DによるCSR活動について「被災地の〝その後〟を、定点観測的に継続して3D撮影し、発災から現在に至るまで、どのように故郷の風景が変わってきたかを記録として残すことで、災害を経験していない子や孫、さらにはその先の世代にも、この災害とその後を〝体感〟してもらい、防災・減災意識の醸成につなげてもらえるよう、活動を続けています」（同）としている。

◇

発信アプリ

国土交通省観光庁は、プッシュ型情報発信アプリ「Safety tips」を紹介した。「Safety tips」は、自然災害の多い日本において訪日外国人旅行者が安心して旅行できるよう、平成26年10月から提供を開始した、観光庁監修の外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ。

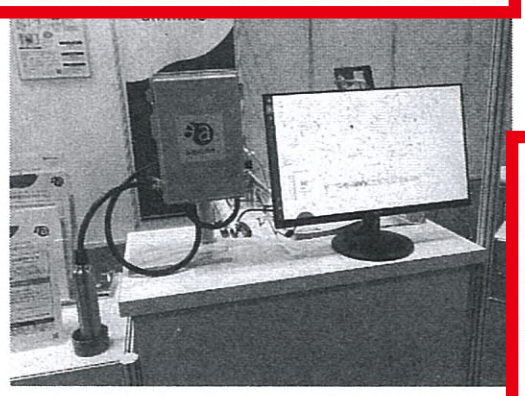
対応言語は11ヵ国語（英語、中国語〈簡体字・繁体字〉、韓国語、日本語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、タガログ語、ネパール語）。令和元年度中に14ヵ国語に拡大予定。日本国内における緊急地震速報及び津波警報、気象特別警報、噴火速報、避難勧告等をプッシュ型で通知できる他、周囲の状況に照らした避難行動を示した対応フローチャートや周りの人から情報を取るためのコミュニケーションカード、災害時に必要な情報を収集できるリンク集等を掲載している。

◇

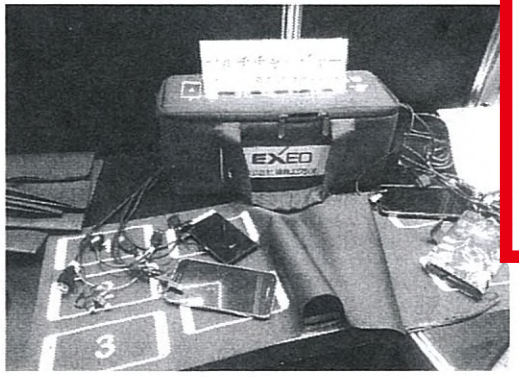
防災対策庁舎を越える大津波が町を襲い、多くの人々が犠牲になった。2017年かさ上げ工事が終わった旧庁舎の周辺には商店街が戻り、復興祈念公園として整備が進められている。

◇岩手県・陸前高田

「ここココ 地すべり検知器」（ビット・パーク）



簡易無線水位計測サービス（アムニモ）



災害用充電器『マルチチャージャ』（協和エクシオ）

ビット・パークは、カンタン設置どこでも検知を目的とした「ここココ地すべり検知器」、リモートで解錠する避難施設用鍵収容箱「ココBOX」などのデモンストレーションを行った。

「ここココ 地すべり検知器」は、可動式のスイッチと検知ワイヤーの組み合わせで地盤異常にけん引されることによって検出器の鉄片が外れ地すべりの発生を検知する。

異常を検知した情報はGPSによる位置座標とともに地すべり検知システム上に警報表示する。担当自治体などは、地すべりが発生した危険地域内に居住の人々にスマホや警報器、防災センターからの警報などで自動通知できる。

「ココBOX」は、内部センサが揺れを感知して自動的に解錠可能（地震検知）。さらに、ここココソリューション連携で①解錠動作をセンタに通知②鍵が出されたことも通知（開扉）③地震でなくても、センター制御で解錠を個別指示④センター側では配置Boxの状況一括俯瞰―を行う。その他の用途でのカスタマイズも可能だ。

◇

アムニモは、簡易無線水位計測サービスを紹介した。これは、使いたいときに、使いたい場所で、すぐに水位を計測できる無線水位計測サービス。工事現場での水位計測、ため池の管理や工場での水害予防、地下街や地下鉄の防災など幅広いシーンにおいて、初期費用無料で、手軽な月額料金のみで利用できる。

同社の簡易無線水位計測サービスは、無線水位計・通信・クラウドのオールインワンパッケージを手軽な月額

北村製作所のブース

環境システ